北信濃里山通信　vol.34

2019年5月22日発行

黒岩山のヒメギフチョウ

福本匡志

4月下旬以降は山々の雪が解け、春を告げる蝶・ギフチョウとヒメギフチョウが舞う季節となる。北信濃の関田山脈や北志賀山塊では、両種の混生域が点在し、温暖域と寒冷域の昆虫が重なり合う生物学的にも貴重な地域だ。

ただ、最近の北信濃ではいずれの産地もギフチョウが勢力を強めて生息域を拡大しているのに対し、ヒメギフチョウは衰退して見られなくなってきている感がある。

現在、関田山脈沿いで確実にヒメギフチョウが観察できるのは斑尾山くらいであろうか・・・。

飯山市秋津地区の荒船山周辺もかつてはヒメギフチョウの産地で、1980年代までの記録はあるが、今は面影がなく、ギフチョウが発生しているという。

両種の混生地として有名な黒岩山は国の天然記念物に指定され、黒岩山保全協議会で森林整備が行われており、良好な環境が維持されているが、保全協議会の田村さんによるとヒメギフチョウは2004年を最後に確認して以降、その姿を捉えてはいないそうだ。

当地の幼虫の食草はギフチョウが主にコシノカンアオイ、ヒメギフチョウがウスバサイシンである。

1983年に発行された「ギフチョウとカンアオイ（藤澤正平著）」によると、黒岩山ではコシノカンアオイとウスバサイシンは混生せず、ウスバサイシンは局所的で自生地が限られている中、ヒメギフチョウの衰退によりギフチョウが食草としてウスバサイシンへの産卵を開始したように見受けられるとある。当時からヒメギフチョウの発生地にギフチョウが進出したようで、ウスバサイシンのみを食草とするヒメギフチョウにとっては、ますます厳しい状況だ。

ヒメギフチョウ　上:オス、下:メス
2017 年 5 月　斑尾山にて
当会員の花崎さん撮影
※ギフチョウとの違いは後翅外縁の半月状紋が黄色（ギフチョウは橙色）

残雪の黒岩山稜線部

本年5月5日、ヒメギフチョウを探しに黒岩山を訪れた。ギフチョウやヒメギフチョウを探すには、山の尾根筋や稜線部を歩き、谷側斜面の発生地から飛び上がってくるチョウを確認するのが効果的である。この日は黒岩山山頂にかけての稜線部を歩き、下から時折ギフチョウが舞い上がってきたが、結局ヒメギフチョウは確認できなかった。

ヒメギフチョウ衰退の原因ははっきりしない。ただ、黒岩山のどこかで生き残ってくれていることを願いたい。

お知らせ

・「第８回・オオルリシジミ親子観察会」の開催

毎年恒例となりました「オオルリシジミ親子観察会」ですが、本年も以下のとおり戸狩地区で行います。是非お誘いのうえ、御参加ください。

【日時・場所】　６月２日（日）午前８:00～12:00　飯山市戸狩地区の放蝶地
【集合場所】飯山市公民館（飯山市飯山1436-1）
【日程など】当日8:00から受付、8:30にバスで開会場所（戸狩スキー場「望の湯駐車場」）に移動、9:00に開会し、徒歩で観察場所に向かいます。直接、開会場所に集合されても結構です。
参加者には食草のクララの植栽、オオルリシジミの観察とモニタリング調査（目視数をカウント）を実施していただきます。
【申込み】　参加を希望される方は、飯山市ふるさと館(当会事務局・TEL：0269-67-2030）へ5月28日までに御連絡ください。
【その他】　山歩きに適した服装でお越しください。小雨決行です。中止すべきような悪天候が予想される場合は、前日夕方までに連絡します。

・オオルリシジミ生息地での成虫確認調査、環境整備

オオルリシジミ生息地での成虫確認調査と環境整備として草原に自生し始めたカラマツなどの幼木類の除伐作業を行います。オオルリシジミは昨年、一昨年と確認されておらず、今後の対策を検討するため、詳細な調査を行いたいと思います。是非、御協力ください。

環境整備は生息地の保全、カヤ場の維持としても重要で、その後も定期的に実施したいと考えます。なお、保護区ロープ設営、看板設置は事前に会員有志で行いましたので申し添えます。

【日時】　6月9日（日）午前9:00～15:00頃
（終わりの時間は参加人員・作業の進行によります・・・。）
※雨天の場合は中止としますが、実施不明な場合は前日の夕方、当会事務局（飯山市ふるさと館）TEL：0269-67-2030へ問い合わせください。
【集合場所】飯山市公民館駐車場としますが、直接生息地に向かわれても結構です。
作業のできる服装でお越しください

活動報告など

・定期総会の開催と「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」、「野焼き」の試行

3月9日に当会の定期総会が飯山市ふるさと館で開催され、昨年度の事業報告、本年度の事業計画、役員改選などが承認されました。カヤの採取事業については継続的に行われるようになり、収入も安定してきていることから、収益の参加者への還元についても話し合われました。

カヤ刈りに一般の参加者を呼びかけ、増やしていくためにも会のスタンスの一つである「ごほうび」について、今後検討する必要がありそうです。

総会後の午後は昨年同様、オオルリシジミ生息地で、春の野焼きを試験的に実施するため消雪剤（炭の粉）を散布です。消雪剤は事前に会員の三井さんと愛犬に運んでいただきました（犬ぞり！：右の写真）。

生息地はまだ１ｍ以上の積雪があり、スノーシューを装備して近くの集落から徒歩で現地へ向かいました。

消雪剤はオオルリシジミ発生地の上段と中段の計４箇所に散布し、この日の作業は終了。その後は部分的に融雪を促し、延焼防止のため周囲に雪を残して野焼きを行います。

雪原での消雪剤散布

散布作業後の集合写真・・・お疲れさまでした

野焼きは融雪状況を確認しながら消防署への届け出を済ませ、4月13日に雪に挟まれた土手の部分、4月18日に消雪剤を散布した平坦部3箇所で実施（1箇所は延焼の心配があったため断念・・・）。燃え方は良好で、午前中2時間程度で作業を終えました。今後は植生の状況を観察しながら、その効果を検証したいところです。

オオルリシジミ生息地での野焼き（土手の部分）

・「カタクリの道観察会」と「ギフチョウ観察会」

こちらも毎年恒例となりましたが、4月14日に飯山市五足活性会委員会主催、当会は後援で「カタクリの道観察会」が五束神社に集合して行われました。

3月は気温が高かったため、カタクリの花はこの頃見頃かと思いきや、4月、特に上旬の気温がかなり低く、開花が遅れており咲き始めの状況。井田会長も、こんなはずじゃ・・・と予想をはずしてしまったとのことでしたが、この日は天気も良く、参加者も大勢集まり楽しんでいました。

例年講師を務められている地元の自然観察インストラクターの高橋勧先生が高齢のため本年から辞退し、信州大教育学部の井田研究室の学生がサポート。当会の方々にも今後はガイドとして協力いただければありがたいとのことです。最後に五束の田んぼ再生で作られたお米の「焼きおむすび・ふきみそ付き」やふきのとうの天ぷら、きのこ汁が参加者にふるまわれました。ごちそうさまでした。

4月27日は飯山市外様地区でギフチョウの観察会が予定されていましたが、悪天候のため中止。現地の山の方では雪交じりの雨が降っていたそうで、こちらも4月の低温で出鼻をくじかれた感じです。

右の写真は5月5日に黒岩山で撮影したギフチョウ。好天でしたが観察数は少なく、残雪が多くて発生が遅れている印象でした。

井田会長からカタクリの生態について解説
「種から芽が出て花が咲くまで何年？」

ギフチョウ・羽化間もない新鮮な個体

・サシバの営巣確認

サシバは猛禽類、タカの仲間で、レッドリストでは環境省版で絶滅危惧Ⅱ類、長野県版で絶滅危惧ⅠB類に区分され、近年減少傾向が著しい鳥です。春の繁殖期になると東南アジアなどから日本に渡り、谷地田（低山の谷間の田んぼ）とそれを取り巻く山林に生息し、代表的な里山の指標種です。

サシバの繁殖地としては、ヒナを育てるための餌となる小動物が豊富に生息し、狩場と営巣できる木々が近接している環境が必須条件だそうで、生物多様性の高い里山の保全が重要とも言われています。

サシバは、これまでも飯山市や木島平村で営巣が確認されていますが、会員の三井さんから右の写真が寄せられ、営巣しているとのこと。北信濃は好適な繁殖地が多そうですが、里山の保全活用を進めながら、サシバを見守っていきたいところです。

飛翔中のサシバ
5 月 4 日　飯山市静間にて

・カヤの搬出作業

昨年11月に採取し、飯山市秋津の荒船山農村公園の小屋に保管しておいたカヤですが、5月11日に搬出して、茅葺き屋根業者の「小谷屋根」に引き取りに来ていただき、納品しました。カヤはトラックに目一杯積み込まれ、これまで最も多く納品できました。引き取りに来ていただいた職人さんからは、「茎の太いものも少なくなり、当初よりもカヤの質は向上している。初めの頃のカヤは使い道にも苦労したが・・・」とのことで、カヤ場として管理しながら継続して採取することが大切なように思われます。

今回は大ガヤ（ススキ）の他、小ガヤ（オオヒゲナガカリヤスモドキ）も納品、今後も評価をいただきながらカヤ刈りを続けます。

トラックに積み込まれたカヤ
依然、需要に対して供給は不足しているそうです。

編集後記

5月6日に小谷村の「牧の入カヤ場」で行われた野火つけ（当地では野焼きをこう呼んでいるそうです・・・）に井田会長とともに参加してきました。地域の方々が集まっての共同作業で、山林との境界部に防火帯を設け、上方から下方に向かって燃やしていく工程（クマデで火種を引きずって下りながら移動します・・・右写真）を体験。31.4haの広大なカヤ場でしたが、午前中で燃え尽くし、作業を終了しました。

野火つけは、毎年欠かさず行われているそうで、継続の重要性を改めて実感！　地域の中で持続的な里山保全活用の仕組み作りを考えていきたいと思います。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会　　会長　井田秀行
事務局：〒389-2253　飯山市大字飯山１４３４－１
飯山市ふるさと館内
TEL/FAX：0269-67-2030
E-mail：　furusato@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志